

情報学類

学生の確保 (人)	年次	定員	志願者	受験者	合格者	入学者		
	1年次	80 (80)	343 (358)	343 (358)	95 (96)	88 (91)		
	編入学・再入学	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
学生の進路 (人)	卒業生	就職者	就職者の内訳			研修医	進学者	その他
			企業	教員	公務員			
	95 1 (109)	32 0 (49)	30 0 (47)	1 0 (0)	1 0 (2)	(0)	57 1 (55)	6 (5)

・ () は前年度の数値を， は外国人留学生を内数で示す。

1 情報学類の活動

〔教育〕

情報学類では、情報の基礎的理論、情報処理技術、計算機関連技術など、広範囲な分野について充実したカリキュラムを用意し、単に現在の学問や技術を修めるだけでなく、それらを多様な問題に広く適用し、解決してゆくための思考力、洞察力を養い、情報化社会の中核たり得る人材を育てることを目標としている。カリキュラムに関しては、JABEEによる審査を想定し、アクレディテーションへの対応について検討を行った。

平成14年度からいわゆる「45単位上限制」が導入されたが、これに伴い、学生に「45単位上限制」の趣旨を周知するとともに、教官の側で「責任ある授業運営」および「厳格な成績評価」を行うことを推奨した。演習・実習の充実を図り、学生が講義に加えて、多様な演習・実習を通して体験的に学習できるように配慮した。また主体的な学習態度と創造性を育成する個人発想型科目を学生が選択するように推奨した。

TA制度は授業を進める上で大いに役立っており、利用財源の拡充が望まれる。TAの選考では特に基礎的な科目や演習・実験を伴う科目を重視している。またTAの質を確保するため、学類でTAの日本語能力についてのガイドラインを定めた。

また、このような情報学類の教育に欠くことのできない教育用計算機システムの更新を平成13年度末に行い、平成14年度から運用を開始した。

〔学生生活〕

クラス連絡会は、平成14年度は2回開催され、学生と学類長、学生担当教官、クラス担任との意見交換が十分に行われた。

学類ホームページについて、学類紹介の他に、学類の概要・理念・目標、卒業研究のテーマ、講義のシラバスなどの各種情報を掲載するようにした。また学内の教員向け、学生向けの情報を充実させ、学類ホームページのポータル化を目指した。各種のメーリングリストの整備を計り、学生への連絡にもメーリングリストを使えるようにした。

また、情報分野における教育の高度化が進んでいる状況を踏まえ、従来の就職委員会を改組し、あらたに進路指導委員会を創設し、進路指導について大学院への進学を含め指導するようにした。その結果として従来50%程度であった進学率が大幅に向上し、平成14年度は卒業生95名のうち57名が大学院に進学した。

2 教員の教育業績評価の状況

今年も学生への授業アンケートを実施した。アンケート結果を授業に反映し、今後の授業改善、FDにどう活用するか検討を行った。また、各教員の講義負荷を正確に調べるため、各教員の授業の分担割合を調べるアンケート調査を実施した。

3 自己評価と課題

平成14年度卒業予定者に、情報学類教育についての意識調査を実施した。学生自身の達成意識、履修態度と理解度、情報学類教育への評価、選択の自由度の評価、大学、学類、キャンパスライフへの評価などについてアンケートの形式で調査した。

今後、開かれた情報学類を目指し、広報面でも社会に向けて各種の情報発信を積極的に進めることが重要になると思われる。高校への出張講義なども積極的に行っていく必要がある。

広報活動の一環として、受験生のための大学説明会を例年通り7月に開催する他に、新たな試みとして3月に東京地区で説明会を開催した。

また、従来情報学類は編入試験を行ってこなかったが、平成15年度入試から新たに、高等専門学校の卒業生等が受験可能な3年次への編入学試験を2月期に実施した。(平成16年度入試からは、7月期に編入学試験を実施する予定としている。)